

情報コーナー



■「初秋の油山・自然かんさつハイキング」

小さい秋を見つけながら森を散策します。

日時：9月16日（日）10:00～13:00

対象：一般来園者（小学生以下は保護者同伴）

定員：なし

申込：不要（9：30 から自然観察センター受付）

参加費：100 円/人

■「初秋の油山・タカの渡りと自然観察会」

油山の上空を通るハチクマなどの渡りを観察します。

日時：9月23日（日）9:30～12:30

対象：一般（小学生以下は保護者同伴）

定員：30 人

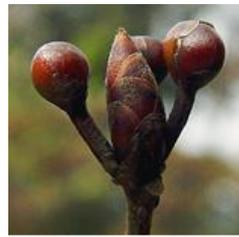
申込：往復ハガキにて（9/17 必着）

参加費：100 円/人

油山の樹木ア・ラ・カト(30)

ちょっと一風変わった名前の木が、油山のそこそこに自生しています。それは、クスノキ科・クロモジ属の「カナクギノキ」です。花期は4～5月、葉の展開と同時に黄緑色で6弁の小さな花が固まって咲きます。9～10月には、球形（径6～7mm）の果実が赤熟しますが、その果実を支える果柄が根元よりも上の方が太いので、昔遊びのケン玉そっくりです。名前の由来は、成木の樹皮が鹿の子状に剥がれ落ちるので、カノコギ（鹿の子木）が転訛し、カナクギノキ（金釘木 or 鉄釘木）となりました。しかし、同じクスノキ科・ハマビワ属のカゴノキ（鹿子の木）程には、鹿の子模様がはっきりしません。私としては、カゴノキの小枝で文字を書くと、ポキポキ折れて金釘流の文字になるので、カナクギノキと言った方がしっくりします。クロモジ属の特徴は、小枝を手折った時に揮発性の芳香を発します。また、開花前の冬芽は真ん中の葉芽が紡錘形、両側の花芽が球形なので、ボクサーのガッツポーズに似て面白いですね。クスノキ科の高木は、クスノキを筆頭にタブノキ、ゲッケイジュ、バリバリノキなどは常緑樹ですが、高木で落葉するのはカナクギノキのみ。クスノキ科の大木と言えば、中央アメリカ原

産で、森のバターと言われる「アボカド」がありました。アボカドのレシピはサラダなどで生食しますが、果実を賽の目に切ってワサビ醤油で頂くと、マグロのトロに似て？酒の肴によく合いますよ。
（安部 泰男）



冬芽のガッツポーズ



雄シベが9個の雄花



赤いケン玉の果実